蟯蟲驅除ニ關スル實驗的並ビニ臨床的研究

第3報　蟯蟲驅除臨床成績ニ就テ

金澤醫科大學小兒科學教室(主任泉教授)

醫學士　舘　孔　三

Koso Tachi

(昭和16年9月27日受附)

本論文ノ一部ハ昨年5月第42回日本小兒科學會地方會ニテ發表セリ.

內容抄錄

著者ハ曩ニ各種驅蟲劑ノ効力ヲ比較研究シ，二種藥劑ノ併用ガ單獨ニ用フルヨリモ一層有効ナルヲ知リ，「ブトラン」加海人草煎液ニテ蟯蟲寄生患兒數名ニ注腸療法ヲ試ミ，治療効果ノ見ルベキモノアリ，各症例ニ就テ簡單ニ報告スルト共ニ，蟯蟲寄生ニヨル所謂蟯蟲症ナルモノニ關シ卑見ヲ述ベ且本症治療ニ關スル二三ノ文獻ヲ紹介シタ.

目　次

第1章　緒　言
第2章　所謂蟯蟲症
第3章　二三特種蟯蟲治療法
第4章　余等ノ治療方法
第5章　症　例
第6章　總括及ビ考按
第7章　結　論
參考文獻

第1章　緒　言

人體寄生蟲驅除ノ困難ナル事ハ周知ノ事ニシテ從ツテ古來各種各樣ノ療法ガ試ミラレテキルガ，未ダ適確ナル療法ガナイ現狀デアル．吾々ハ此處ニ鑑ミルトコロアリ，昨年春以來小兒ニ比較的多イ蟯蟲寄生驅除ニ關シテ研究シ，驅蟲劑ノ効力トイフ見地カラ，蚯蚓及ビ人體寄生蟯蟲ヲ實驗材料トシテ之等藥劑ノ効力ヲ比較研究スルト共ニ，他方實際患兒ノ驅除法ヲ試ミ，些カ推賞スベキ方法ヲ經驗シタノデ症例ヲ報告シ大方ノ御批判ヲ仰ガントスルモノデアル.

第2章　所謂蟯蟲症

先ヅ症例ヲ報告スル前ニ古來成書ニ記載サレテキル蟯蟲寄生ノ人體ニ及ボス影響，所謂蟯蟲症ナルモノニ就テ簡單ニ述ベテ見ヤウ.

第一ハ局所刺戟症狀ニシテ，雌蟲ガ夜間產卵

ノ爲ニ肛門部ニ這ヒ出シテ一種ノ機械的刺戟ニヨツテ肛門部痒感ヲ呈シ，女兒デハ本蟲ガヨク陰門ヤ膣ノ中ニ這入ル爲ニ陰門炎及ビ膣炎ヲ惹起シ，劇シキ瘙痒症ノ爲ニ色々ナ神經症狀ヲ呈スルコトガアル．

第二ニハ矢張機械的刺戟症狀トシテ直腸及ビ大腸ニ加答兒症狀ヲ呈シ下痢便ヤ粘液便，或ハ血便ガ出タリスル．

更ニ近來蟲樣突起炎ガ本症ト關係アル樣ニ唱ヘテイル學者モアル．シカシ最近 Füsthy [1] 氏ノ研究ニヨレバ Appendicopathia Oxyurica ナル症例ハ僅カ乍ラアルトシテモ (0.6%)，眞ノ蟲樣突起炎ハ決シテ本蟲ニヨリテ起リエナイモノデアルトノ意見デアル．

第三ニハ神經障碍デアルガ，之ハ上述ノ蟲體ノ刺戟ニヨル肛門瘙痒症等ノ爲ニ安眠ヲ妨ゲラレル結果，機嫌ガ惡シクナリ，興奮シ易ク，稀ニハ憂鬱症ヲ呈シ，甚シキハ神經衰弱症ヲ起スニ至ルト云ハレル．其他マダ遺尿症トカ，生殖器障碍等二三擧ゲラレテイルガ，要スルニ症狀ノ因ツテ來タルトコロハ機械的刺戟作用ガ主デアル．

然シ乍ラ元來蟯蟲症 (Oxyuriasis) ナル病名ハ成書ニハ立派ニ記載サレテキルガ，我々小兒科領域ニ於テハ，殆ンド有名無實ナ名稱ニシテ，タマタマ便中ニ本蟲體ガ發見サレタカラトテ外來ヲ訪レテ驅除ヲ乞フ程度ニシテ，殆ンド自覺症狀ヲ訴ヘテクルモノガ無ク，又他覺的所見トシテ一般ニ據ル可キモノガ無イ．從ツテ我々ガ外來ニテ本蟲ノ寄生ニヨル害ヲ述ベテモ一向ニ乘氣ガセヌ程，家人ハ本蟲ニ對シテハ理解ガナイ．甚シキニ至ツテハ，幼イ時分ニハ蟲ガタツテイルモノダト公言シテ憚カラヌ無智ナ親達モイラツシヤルノデアル．故ニ蟯蟲ガ寄生スルカラトイツテ直チニ蟯蟲症トイフ病名ヲツケルノハドウカト思フ．又本蟲寄生ニヨツテ良ク起ルト云ハレテイル上記諸症狀モ果シテドノ程度迄本蟲寄生ニ原因スルヤニ關シテハ限界ガ定カデナイノデ，我々ハ今日一般ニ蟯蟲症ナル名前ハ滅多ニ使用シナイ事ニシテキル．

第3章　二三特種蟯蟲治療法

次ニ本蟲驅除法ニ關シテハ大體第1報[2]ニ於テ概述シタガ，尙二三特種ナモノヲ述ベテミヤウ．

1) Lubisan (Bayer)

之ハ山口教授[3]ガ最近新藥界ノ管見トシテ記載サレテオラレル中カラ引用シタモノデアルガ，組成ハ Resorcin-monobutylaether-diaethylcarbamat ニシテ，0.15g 入カプセル」ニナツテキル．患者ハ前日カラ絕食シテ次ノ樣ニ與ヘル．

年齡	Dosis
1—2年	2
3—4	3
5—6	4
7—9	5
10以上	6

2) 神保氏[4]ハ大正ノ頃「ヘノポヂー」油療法ヲ推賞シ，1回頓服法デ且持續連用法ヲ提唱シ，該療法ニヨツテ驅除サレナイ蟯蟲寄生例ハナイト述ベテオラレル．

3) Stettiner [5] 氏ハ炭水化物ノナイ食餌ヲ攝ラシムレバ蟯蟲ハ腸內ニ生存シエナイトイフ考ヘデ，患者ニ「ミルク」ノ如キモノヲ與フレバ驅蟲ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルト云ツテオル．

4) 又 Rietschel [6] ハ蛋白質及ビ脂肪ニ乏シク植物纖維素多キ食餌ヲ攝ル場合，腸內ニ於テ蟯蟲卵孵化增殖旺盛ニシテ，蛋白質，脂肪含有多ク，植物纖維素少ナキ食餌攝取ノ場合ハ然ラズト報告シテキル．

5) 淸潔ハ又本蟲病ノ治療及ビ豫防上甚ダ重要ナル事項ニシテ，Franke 氏ハ自ラヲ淸潔ニ保ツ事完全ナラバ，藥治法ニヨラズトモ1ケ月以內ニ自然ニ根治シ得ベシトイツテキル．

第4章　余等ノ治療方法

一般ニ現行ノ蟯蟲驅除法ヲ大別スレバ第1報ニモ述ベタ樣ニ

i) 服藥法

ii) 浣腸或ハ注腸法及ビ坐藥挿入法

iii) 肛門塗擦法

デアルガ，之等療法ノ優劣ハ簡單ニハ定メ難ク，蟯蟲ノ生活史及ビ寄生部位等カラ見レバ，三者併用療法ガ最モ理想的デ且合理的ナ譯デアルガ，然ラバ果シテ如何ナル驅蟲劑ヲ如何樣ニ使用ス可キヤノ問題ニ關シテハ今日遺憾乍ラ推賞スベキ療法ガナイノデアル．

當教室ニ於テモ多年本蟲驅除ニ苦心研究シツヽアリ，而シテ昨年春以來試ミシ療法ガ比較的從來ノ方法ニ比シテ成績ガ良好ノ樣ニ思ハレタノデ烏滸ガマシクモ敢テ發表スル次第デアル．

余等ノ方法トシテハ至極簡單ニシテ專ラ注腸法ヲ試ミタノデアル．

注腸液ハ

市販海人草ニ「ブトラン」及水ヲ一定量加ヘ，之レヲ100°C 30′加熱シタル後「ガーゼ」ニテ濾過セルモノナリ．濾液ハ氷室ニ入レオキ必要ニ應ジテ體溫ニアタヽメテ就眠前，都合ニヨツテハ排便後，年齡ニ應ジテ10～15～20cc 宛1日1回注腸スルノデアル．

普通1週間ヲ以テ1「クール」トシタガ患者ノ都合ニヨリ5日デ中止シタ場合モアル．又蟲體ノ排出ガ1週間ヲ以テモ尙止マヌ時ハ更ニ續ケテ長キハ10日ニ及ンダモノモアル．又第1回「クール」後暫ク經テ再ビ排蟲アル時ハ直チニ第2回目「クール」ヲ行ツタ．

尙市販ノ海人草ニツイテデアルガ，之ニハ御承知ノ如ク隨分良否ガアリ，使用ニ當リ一々吟味スベキデアルガ，原料不足ノ折柄入手次第之ヲ使用シタ．使用ニ際シテハ他ノ海藻類ヲ丁寧ニ選リ分ケ，且砂ガ澤山附着シテキルノデ1～2回水洗シタモノヲ用ヒタ．

肛門周圍部ニハ灰白軟膏，痒感ノアルモノニハ10%「アネステジン軟膏塗布ヲ行ツタ．且豫防的意味ニ於テ從來行ハレテキル如ク，猿股，「ヅボン」，敷布等ノ熱湯消毒，寢具類ノ日光浴，手指ノ消毒（殊ニ攝食時，排便後）等ヲ出來ル丈嚴重ニ行ハセタノハ勿論デアル．

第5章 症 例

第1例：

中川○合子，3Lj．7M．農家．

昨年2月猩紅熱デ入院中ノ患兒ニ，ソノ母親ガ以前カラ糞便中ニ時々白イ糸ノ如ク小サイ蟲ガ出ルノデ，入院中ノ機會ヲ利用シテ是非驅除シテ呉レトノ事デ大體下記ノ如キ驅除法ヲ試ミタノデアル．

先ヅ最初驅蟲ノ目的ニ内服藥トシテ

ブトラン 0.5
アンテニン 0.3 } 3×空腹時服用ニテ10日間連用サセタトコロ，其後排蟲ガ止ンダガ，服藥中止後1週間シテカラ再ビ蟯蟲ガ糞便ト一緒ニ出タノデ，今度ハ内服ヲ止メテ專ラ注腸法ノミヲ行ツテミタ．卽チ療法トシテハ就眠前9時カラ10時迄ノ間ニ上記ノ如キ注腸劑ヲ連續シテ行ツタノデアル．

		量	回數	蟲體檢出數
第1日	海人草煎液	20cc	(I)	8
第2日	同上液	20cc	(II)	20
第3日	同上液	20cc	(III)	7
第4日	同上液	20cc	(IV)	2
第5日	同上液	20cc	(V)	0

依ツテ第6日目ニハ糞便中ニハ卵ハ勿論，蟲體ヲ認メナカツタノデ，「クール」ヲ中止シタトコロ第7日目ニ3匹ノ排蟲アリ，早速再ビ前記注腸ヲ第8，第9，第10日ト3日間施行シタトコロ排蟲1匹モ認メズ．以後13日間退院ニ至ル迄蟲體全然出ズ．退院後モ再ビ訴ヘナシ．

本症ハ最初内服ニテ充分ナル驅蟲ノ目的ヲ達セザリシモノニ，タマタマ注腸ヲ試ミテ意外ノ効果ガアツタ例デ以下ノ症例モスベテ該療法ニヨツテ成功シタト思ハレルモノノミヲ掲ゲタ．

第2例：

大○保○二，♂，3Lj．2M．指物商．

（父目下出征中）

昭和14年春頃ヨリ排便ト同時ニ白色，小サナ蟲ガ便ニ附着シテ時々排泄サレルノヲ認ム．同時ニ臀部，兩下肢一帶ニ濕疹ヲ生ジ今日ニ至ル．肛門周圍モ痒感ノ爲カ搔キタルアトアリ．濕疹ハ一部痂疵デ覆ハレ，一部濕潤シ汚ク暗赤褐色ノトコロアリ，他面治癒期皮膚肥厚ヲ呈セル部位アリ．一見シテ全部ガ蟯蟲ニヨル肛門周圍部濕疹ヨリ波及セルモノトハ首肯シ難キモ，確カニ一部ハ蟯蟲ガ與カツタモノト想像サレタ．

主訴 排便時白色小サキ蟲體ノ排出及ビ發疹（搔痒感激烈）

初診 昭和14年6月21日

外來時所見

目立ツタ所見ダケヲ述ベルト，病歴ニモアル樣ニ春以來臀部及ビ兩側下肢一面ニ大ナルモノハ手掌大位カラ，其他形狀種々ナル濕疹ガ殆ンド健康ナ皮膚ヨリモ廣範圍ニ生ジ，痒感甚シキモノノ如ク，至ル所搔キムシツタトコロガ見受ラレル．肛門周圍モ糜爛狀ヲ呈シ濕潤ス．且一般狀態モ侵サレ，患兒ハ羸瘦シ，食思不振ヲ訴フ．又痒感ノ爲ニ睡眠ガヒドク障碍サレ，不機嫌デ些細ナ事ニ怒リツポイト．

治療及ビ經過

早速驅除法ヲ試ミベキモ餘リニモ濕疹高度ナ爲ト榮養狀態惡シキ爲ニ先ヅ一般狀態ノ恢復ヲハカリ他方濕疹ノ治療ヲ行ツタ．藥劑トシテハ普通强壯劑ヲ與ヘ，濕疹ニハ「リバノール」入亞鉛華硼酸軟膏ヲ塗布ス．約2週間ニシテ前記症狀甚ダ輕快セルニヨリ，7月6日ヨリ愈々蟯蟲驅除法ヲ開始ス．開始前ノ糞便中ニハ毎日數匹ノ蟯蟲ノ排泄及ビ肛門周圍部ヨリ蟯蟲卵ヲ證明ス．

肛門周圍部蟲卵檢査法

本蟲寄生ノ有無ハ糞便中ニ蟲體ヲ認ムレバ最モ確カナルモ，糞便ヨリ蟲卵ノ檢出ハ殆ンド不可能トイハレテイル程デ，從ツテ蟲卵ノ檢査トシテハ是非共肛門周圍部ヨリ行ハレナケレバ目的ヲ達スル事ガ出來ナイ．之ニ關シテハ森脇氏(7)ハ5%加里滷汁ニ浸シタル綿棒ニテ肛門ヲ拭ヒソノ可檢物ノ遠心沈渣ヲ檢鏡スル事ヲ行ヒ，又門馬，神谷(8)兩氏ハ檢査方法トシテ次ノ如キ方法ヲ推奬シテオラレル．

先ヅ熱湯ニ浸シタル「ガーゼ」小片ヲ割箸ノ一端ニ卷付ケソレヲ以テ肛門周圍ノ皺襞ヲ丁寧ニ拭ヒ次ニソノ割箸ヲ，生理的食鹽水約10ccヲ容レタル大型試驗管ニ移シ充分攪拌シテ「ガーゼ」ニ附着セル蟲卵ヲ遊離セシムル事ニ努メタル後ソノ食鹽水ヲ遠心沈澱シテ檢鏡スト．

余等モ患者ノ診斷及ビ驅蟲ニ當リテハ專ラ門馬氏等ノ方法ヲ採用シテキルガ，割合ニ檢査ガ正確ヲ期シ得ルモノト思フ．

第1回「クール」

經過日數	治療日	注腸量	回數
第1日	6/VII	15cc	(I)
第2日	7/〃	〃	(II)
第3日	8/〃	〃	(III)
第4日	9/〃	〃	(IV)
第5日	10/〃	〃	(V)
第6日	11/〃	〃	(VI)

驅除成績トシテ蟲體ノ數ハ明記シナカツタノデ殘念乍ラ發表スル事ハ出來ナイガ，第II回目注腸後尙蟲體2匹ノ排泄ヲ認メ，更ニ第IV回施行後3匹ノ排蟲アリタルモ，第V回以後全然糞便中ニ認メズ．依ツテ注腸回數6回ニシテ一先ヅ中止シタルニ，7月19日卽チ第1回「クール」終了後8日目ニ至リ，母親ガ再ビ糞便中ニ2匹見ツケタト報告ス．

早速ソレデハト第2回目「クール」ヲ行ハントセシニ，タマタマ北支戰線ヨリ父親凱旋ノ由ニテ暫ク外來ヲ休ミオリタルニ8月1日再ビ訪レテ驅除ヲ乞フ．

第2回「クール」

經過日數	治療日	注腸量	回數
第1日	1/VIII	15cc	(I)
第2日	2/〃	〃	(II)
第3日	3/〃	〃	(III)
第4日	4/〃	〃	(IV)
第5日	5/〃	〃	(V)
第6日	6/〃	〃	(VI)
第7日	7/〃	〃	(VII)

偖而第2回目「クール」ニ於テハ，第II回注腸以後卽チ8月3日來糞便中ニ全然蟯蟲ノ排泄ヲ認メズ．且肛門部蟲卵檢査法ニヨルモ全然蟲卵ヲ認メズ．然シ乍ラ今回ハ念ノ爲更ニ「クール」ヲ續行シ，前後1週間行ヒテ中止ス．以後外來ニ他病ニテ度々來訪スルモ蟲體ノ排泄ヲ認メズト．本年モ去ル5月本患兒腎臟炎ニテ入院シ，母親ニ以後ノ樣子ヲウカガヒシニ御蔭樣デトノ返答ヲ得テ，幸ニ余等ノ療法効ヲ奏シタモノト確信シタ．

第3例：

大○保○薰，♂，1I.j. 6M.

患兒ハ第2例ノ弟デアル．

病歴　昭和14年初春頃ヨリ灰ヤ炭ヲ食ベタリスル外，殊ニ壁ヲナメテ仕樣ガナイト．同年6月初メニ母親ガ患兒ノ糞便中ニ兄ト同樣ニ白イ細キ短カイ蟲ガ動イテキルノヲ發見シ，「サントニン」「セメン圓」等ヲ與ヘテミタガ一向ニ輕快セズ．其後時々上記ノ如キ蟲ガ出ル由ニテ兄弟ヲ伴ヒ驅除ヲ乞フ．

外來時所見　顏色ヤヽ蒼白，輕度羸瘦，顏貌元氣無キ外著見ナシ．

糞便檢査　便ニ蟯蟲ヲ認メ且集卵檢査ニテ蟯蟲卵ヲ認ム．

驅蟲法トシテハ同樣海人草煎液ニ「ブトラン」ヲ含有セル液ヲ以ツテ毎晩就眠前注腸ヲ行ヒ，且肛門周圍部ニ10%「アネステヂン」軟膏ヲ塗布セシメタ．內服トシテハ特別ノ驅蟲劑ヲ投與セズ．

第1回「クール」

經過日數	治療日	注腸量	回數
第1日	21/VI	15cc	(I)
第2日	22/〃	〃	(II)
第3日	23/〃	〃	(III)
第4日	24/〃	〃	(IV)
第5日	25/〃	〃	(V)
第6日	26/〃	〃	(VI)
第7日	27/〃	〃	(VII)

治療第2日目排便時蟯體3匹ヲ認メ，且肛門部蟯卵檢査法ニヨリテ全視野ニ2乃至3ヶ程度ニ蟯卵ヲ認メタガ，第4日目ニ持參セル糞便デハ蟯體ヲ認メズ且蟯卵檢査法ニヨルモ卵ヲ證明セズ．卽チ治療後4日目ニシテ已ニ排蟯止ミ安心シテイタトコロ「クール」中止翌日6月28日，多少ノ下痢便ヲ呈シ其際一時ニ十數匹モノ蟯蟲ガウヨウヨト出タ事ヲ訴ヘタノデ，以後氣ヲツケテキタガ糞便中ニ證明セズ．然ルニ7月8日，9日ト兩日ニ再ビ數匹ノ排蟯ガアツタ．依ツテ早速第2回「クール」ヲ施行シタ．

第2回「クール」

經過日數	治療日	注腸量	回數
第1日	10/VII	15cc	(I)
第2日	11/〃	〃	(II)

本日排便時蟯體2匹ヲ認ム．

第3日	12/VII	15cc	(III)
第4日	13/〃	〃	(IV)
第5日	14/〃	〃	(V)
第6日	15/〃	〃	(VI)
第7日	16/〃	〃	(VII)

第3日以來排蟯ガ止ンダ．依ツテ以來家人ニ注意シテ蟯體ヲ認メタラ再ビ尋ネル樣ニト申シ渡シテオイタガ，其後外來ニ時々來ルモ兄同樣全然排泄サレズト感謝シテキル．

第4例：

津○芳○，♀，3Lj．8M．豆腐業．

病歷　昭和14年初春來糞便中ニ白色ノ細イ小サイ蟯體ヲ發見シ，4月中某醫ノ治療ヲウケ一旦治癒シタ樣ニ見エタガ，先月7月27日突然高熱ヲ發シ急性消化不良症ノモトニ同醫師ニテ浣腸ヲ行ヘシニ便ニ混ツテ多數ノ前記蟯體ノ排泄ヲ認メタ．之ノ寄生蟯ノ爲ナリヤ否ヤ不明ナレド春以來患兒ハ神經質トナリ，僅カノ事ニ氣ムヅカツタリ，怒リツポクナツタ樣デ，母親ノ言ニヨレバ今迄カヽル氣質デナカツタ由ニテ是非驅除シテクレトノ事デ外來ヲ訪レタ．

初診　昭和14年8月7日

外來時所見

糞便檢査　蟯體ヲ便中ニ認メナカツタガ，肛門部蟯卵塗査法ヲ行ヒシニ蟯蟲卵ヲ證明ス．依ツテ卽日ヨリ驅除法トシテ前記症例ト同樣ノ注腸法ヲ行フ．且肛門部ニハ每晩10%「アネステジン」軟膏ヲ塗擦セシメタ．

第1回「クール」

經過日數	治療日	注射量	回數
第1日	7/VIII	15cc	(I)
第2日	8/〃	〃	(II)
第3日	9/〃	〃	(III)
第4日	10/〃	〃	(IV)
第5日	11/〃	〃	(V)
第6日	12/〃	〃	(VI)

第1日，第2日目ニ數匹宛排蟯サレタガ，第3日目持參セル糞便ニハ蟯體ナク，且蟯卵檢査法ヲ行フモ陰性ニテ以來全然排蟯ナシト．

幸ニ本症ハ唯一回ノ「クール」ニテ治癒シタト思ハレル例デアルガ，治療期間中下痢ニ傾イテキタ點，多少治癒促進ニ與ツテ効果ガアツタト思ハレルノデアル．

第5例：

大○市○郎，♂，2Lj．8M．農業．

病歷　約半年程前カラ患兒ハ終始肛門部ヲ痒ガツテ手ヲヤツテイタノニ氣ヅイタガ，別段其他ニ異狀ヲ認メナカツタ．トコロガ10日程前ニ便所ニツレテユカズニ，新聞紙上ニ排便サセテミタトコロ，約1cm大ノ白イ絹ノ如キ蟯ガ便ニ附着シテ動イテキルノヲ發見シ，以來氣ヲツケテ便ヲシラベルト同樣ノ蟯體ガ數匹，多イ時ハ十數匹モ出タト．

初診　昭和14年6月8日．

糞便檢査　蟯蟲ヲ認ム．

治療及ビ經過

經過日數	治療日	注腸量	回數
第1日	9/VI	15cc	(I)

排蟯7匹ヲ認ム．

第2日	10/〃	15cc	(II)

排蟯ナク，且肛門部蟯卵檢査ニヨルモ蟯卵ナシ．

第3日	11/〃	15cc	(III)

糞便中ニ蟯體ヲ全然證明セズ．

第4日	12/VI	15cc	(IV)
第5日	13/〃	〃	(V)
第6日	14/〃	〃	(VI)
第7日	15/〃	〃	(VII)

本症ハ驅蟯開始來直グニ排蟯止ミ，一見奇異ニ感ゼ

ヲレルモ，一般ニ本劑ノ注入ニヨリテ蟲體ノ排泄ハ必ズシモ活潑ニ行ハレザルモノヽ如ク，而モ良ク奏効スルガ，一體體內ニ存在スル蟯蟲ガ如何ナル變化ヲウケ，如何ナル運命ヲトルヤ，而シテ何故左程ノ排蟲行ハレズ，ムシロ忽チ排蟲止ムヤニ關シテハ疑問トスル所デアル．

本症モ第4例ト同樣唯一回ノ「クール」デ以來排蟲ヲ呈セズ治癒シタ例デアル．

尙本症ニ於テハ每晩家人ニ肛門部ヲ拭キトラセテ嚴重ニ蟲卵檢査法ヲナシタ例デアルガ，第2日目以降全然蟲卵ヲ證明シナツタ．

且又第4例ト同樣ニ本兒モ亦便ガ下痢ニ傾イテイタ事ハ注目サルベキデアル．

第6例：

瀨○玉○，♀，6Lj．6M．雜貨商

病歷　數日前カラ便中ニ白色小サナ糸狀蟲體ガ認メラレ，氣持ガ惡イカラ何トカシテオロシテ下サイトテ當外來ヲ訪レタ．

初診　昭和14年8月22日．

外來時所見　患兒ハ可成リ羸瘦シ，顏面蒼白，心音ニ濁音ヲ聽スル外著患ナシ．

糞便檢査　排便時2匹ノ蟯蟲ヲ認ム．

依ツテ型ノ如ク驅除法ヲ行フ．

經過日數	治療日	注腸量	回數
第1日	23/VIII	20cc	(I)
第2日	24/〃	〃	(II)

本日糞便中ニハ蟲體ヲ認メナカツタガ，普通集卵法ニヨツテ檢スルニ蟯蟲卵ハナカツタガ，鞭蟲卵全視野ニ2～3ケノ割ニ認メラレタ．

第3日	25/〃	20cc	(III)
第4日	26/〃	〃	(IV)
第5日	27/〃	〃	(V)

本症モ治療開始第2日目ヨリ全然蟲體ノ排泄止ミ，以來一度モ前記蟲體ノ排出ナシト約1ケ月後家人ガ外來ヲ訪レテ答ヘタ．

本症ハ家ノ都合上僅カ5回ノ注腸ヲ以ツテ驅蟲ニ成功セリト見ルハ尙早計ナランモ，確カニ本劑ノ注腸ニヨツテ，排便時蟲體ノ排泄スル家人ノ不快感ヲ除キタル點ニ於テ効果ガアツタ事ハ特記スベキデアルト思フ．

第7例：

細○典○，♂，6Lj．農業．

病歷　昭和14年9月中旬過ヨリ肛門部ノ痒感ヲ訴ヘ，同時ニ排便時糞便ニ附着シテ白色絮狀ノ小サナ蟲ガ出ルノヲ發見シ，早速某醫ニ驅除方ヲ乞ヒ約1週間內服藥ヲ與ヘラレテ暫ク排蟲止ミタルニ，約2週間程經タ10月中旬ニ再ビ排蟲起リ，今度ハ浣腸及ビ肛門部軟膏塗擦療法ヲ行ツタガ之モ驅蟲ガ成功セズ，11月初メ又々排蟲アリタルニヨリ，今回ハ前記醫師ヲ止メテ新タニ市內某醫ノ加療ヲ受ケ約1週間內服治療シテ大變ヨクナツタガ根治スルニ至ラズ，12月中モ極稀ニ排便時1～2匹出ル位ノ程度デアツタガ，12月31日ニ再ビ7匹出テ以來排便時每回ノ樣ニ蟲體ヲ認メタノデ當科ヲ訪レルニ至ツタ．

初診　昭和15年1月10日

主訴　肛門部搔痒感及ビ白色絲狀蟲體ノ排便時排出．

外來時所見　榮養中等度，胸腹部著變ナシ．肛門周圍部輕度糜爛狀ヲ呈シ多少痒感アリ．生來便秘ノ傾向アリテ2～3日ニ1回位ノ方デアル．且家人ノ言ニヨレバ昨年秋頃ヨリ幾分怒リツポクナツタ樣ダト．

糞便檢査　便中ニ蟯蟲ヲ確認ス．且肛門部蟲卵檢出法ニテ蟲卵ヲ證明ス．

治療及ビ經過

經過日數	治療日	注腸量	回數	排蟲數
第1日	11/I	10cc	(I)	5
第2日	12/〃	〃	(II)	2
第3日	13/〃	〃	(III)	1
第4日	14/〃	〃	(IV)	1
第5日	15/〃	〃	(V)	排便ナシ
第6日	16/〃	〃	(VI)	0

肛門部擦拭集卵檢査法ニヨルモ全然蟲卵ヲ認メズ．

第7日	17/I	20cc	(V)	0
第8日	18/〃	〃	(VI)	排便ナシ
第9日	19/〃	〃	(VII)	0

本療法ニテ本回モ効ヲ奏シタカニ思ハレタトコロ1月29日ヒヨツコリ來院シ昨28日便中蟲ガ1匹見當ツタ由．（家人ハトテモ神經質ニナリ每日必ズ便ガ出タラ直グ注意シテ念入リニ檢査シテヰタモノデアル．）

本症ハ前述ノ如ク最初カラ便秘ニ傾キ，療法中ノ便モ有形ニシテムシロ固イモノデアリ，且又再三各種ノ驅蟲劑ヲ試ミラレテヰタ爲ニ，豫メ驅蟲困難ナル旨家人ニ告ゲテオイタモノデアルガ，果シテ第1回「クール」ニテ成功セズ．依ツテ第2回目ノ「クール」ヲ2月14日ヨリ行ツタ．

第2回「クール」

經過日數	治療日	注射量	回數	排蟲數
第1日	14/II	20cc	(I)	2

第2日	15/〃	〃	(II)	3
第3日	16/〃	〃	(III)	1
第4日	17/〃	〃	(IV)	0
第5日	18/〃	〃	(V)	0

第2回「クール」ニ於テハ前記6症例ト異リ，「オキシウリン」ノ内服併用療法ヲ試ミタノデアル．即チ

オキシウリン	0.5	3×
ペリペロール	0.5	
ヂアスターゼ	0.3	
白糖	1.0	

爲ニ第2回「クール」ニ於テハ今迄1日1回アツタリ，ナカツタリシタ便通ガ多イ時ハ數行トナツタガ，期待シタ程ノ蟲體ノ排出モ無ク，且下痢ニヨル患兒ノ苦痛モ殆ンド無カツタ．第2回「クール」ハ都合ニヨリ5回シカ行ハナカツタガ，以來今日ニ至ル迄約6ケ月ヲ經過スルモ排便時蟲體ヲ見ズト家人ガ喜ンデヰル．

第6章 總括及ビ考按

蟯蟲患者數例ニ驅除法トシテ主トシテ注腸法ヲ行ヒ，液劑トシテハ既ニ發表セル實驗的研究ニ基キ「ブトラン」加海人革煎液ヲ用ヒタ．勿論肛門部ニハ軟膏塗布療法ヲ行ツタガ，内服トシテハ殆ンド驅蟲劑ヲ試ミナカツタ．唯第7例ニ於テ便秘ガアツタノデ下劑ノ意味デ「オキシウリン」ヲ服用セシメテミタ．

我々ハカヽル僅カナ治驗例ヲ以ツテ難治ト云ハレル蟯蟲ノ驅除ノ効果ヲ云々スルノハ笑止ノ至リト思フガ，然シ乍ラ本法ニヨツテ治リウル場合モアルトイフ事ハ確カデアル．

抑々本蟲ノ寄生部位カラシテモ且又寄生蟲自體ノ驅除トイフ點カラモ内服ノミニヨル効果ハ甚ダ期待ノ薄イモノノヤウニ思ハレル．マシテ小兒ニ於テハ驅蟲劑ノ一般ハ劇藥ノ部ニ屬シ，從ツテソノ使用法，使用量ガ甚ダ難カシイ上ニ，或ル場合ニハドウシテモ服用ヲ拒否シ，折角無理ニノマセテモスグ嘔吐等ヲナス事サヘアルノハ日常ヨク經驗スルトコロデアル．又成書ニモ記載サレテヰル灌腸ハ注腸ニ比シテ一層効果ガアルダラウガ，大量ノ液劑ノ注入ハ之又甚ダ小兒ノ嫌フトコロデアル．シカルニ僅カノ注腸(10～20cc)ハ如何ナル小兒モ殆ンド嫌惡セヌノデアル．カヽル點カラモ出來得ベクンバ注腸法デ驅除出來タラ之位簡單ナ事ハナイト思フ．

次ニ如何ナル治療ヲナスニアタツテモ同ジ事デアルガ，蟯蟲驅除ニ於テモ度々驅除ヲ試ミタモノハドウシテモウマク成功セヌ樣デアル．

症例第2，第3，第7例ハ中々頑固ニシテ何レモ2回ノ「クール」ヲ必要トシタモノデアルガ，一般ニ蟯蟲ハ内服ト注腸トヲ併用スレバイザ知ラズ，注腸法ニヨル時ハ少クトモ2回以上ノ「クール」ヲ必要トスルモノノヤウニ思ハレル．ソハ蟯蟲ノ生活史ニ徴シテモ明白ナ事デアル．且本症等ハ何レモ事前ニ「サントニン」，「セメン圓」等ノ驅蟲劑ノ使用ヲ試ミテイタ點カラ，或ル程度驅蟲劑ニ對スル抵抗力ガ高マツテヰタ事モ考慮サレル．從ツテカヽル患者ニハ藥劑ヲ適宜取リ換ヘルコトモ勿論ダシ，「クール」モ3～4回ト根氣ヨク行ハネバナラヌダラウ．

又便秘シ勝ナ小兒ハ之又注腸法ダケデハ効果ガ望マレヌ樣デ，必ズヤ緩下劑ノ併用ヲ必要トスルノデハアルマイカト思フ．

我々ハ勿論注腸法及ビ肛門塗擦療法ノミニテ完全ナモノトハ考ヘナイ．少クトモ蟯蟲驅除ニアタツテハ，内服，注腸，塗擦ノ三者併用療法コソ理想的驅除法ト信ズル次第デ，從ツテ今後更ニ研究ヲ重ネ，本蟲驅除ノ完璧ヲ期シタイト希望スル次第デアル．

第7章 結 論

蟯蟲患兒數例ニ注腸療法及ビ肛門塗擦法ヲ試ミ幸ニ治癒セシメ得タ．注腸液トシテハ曩ニ發表セル余ノ小實驗成績ヲ基トシテ調製セルモノデ卽チ「ブトラン」加海人草煎液ヲ使用シタ．肛門塗擦劑トシテハ從來ノ如ク灰白軟膏或ハ「アネステジン」軟膏ヲ使用シ，一般清潔法ヲ嚴重ニ守ラセタコトハ勿論デアル．

擱筆ニ臨ミ始終御懇篤ナル御指導ト御鞭撻並ビニ御校閲ノ勞ヲ賜ハリタル恩師泉教授ニ深甚ノ謝意ヲ表ス．

參 考 文 獻

1) **O. Füsthy:** Das Vorkommen von Enterobius vermicularis. Zeitschr. f. Kinderheil. Bd. 60, Heft 4, Seite 401, 1939. 2) **舘孔三:** 蟯蟲驅除ニ關スル實驗的研究，第1報，各種驅蟲劑ノ効力比較試驗． 3) **山口壽:** 最近新藥界ノ管見，診療ト經驗，第4卷，第7册，第38號，107頁． 4) **神保孝太郎:** 蟯蟲ノ寄生蔓延ニ就テ．日本消化機病學會雜誌，第21卷，大正11年． 5) **H. Stettiner:** Zur Behandlung der Oxyuriasis. Berl. Kl. Wochenschr. Jg. 49, S. 902, 1912. 6) **H. Rietschel:** Kinderärztliche Praxis, Heft 11, 1935. 7) **森脇忠勇:** 小兒ニ於ケル腸寄生蟲卵殊ニ蟯蟲卵檢出ノ頻度及ビ該蟲卵檢出法ノ優劣ニ就テ．臨床小兒科雜誌，第9卷，第11號，昭和10年． 8) **門馬健次，神谷清:** 大阪に於ける小兒蟯蟲寄生ノ蔓延．診療と經驗，第3卷，第2册，第21號，1939．